令和 2 年（2020）6 月 26 日

高知大学海洋コア総合研究センター外部評価委員会　委員長　総評

委員会委員からの個別の評価シートの内容及び委員会当日（令和2年6月12日）の議論と配布資料をもとに、委員長総評をここに記します。

地球掘削科学／地球生命科学コミュニティの共同利用・共同研究拠点／大型研究施設の管理運営体制は、高く評価されます。総合的な観点においては、A 評価が委員の一致するところです。海洋コア総合研究センター（CMCR）職員並びに協力、共同研究者の不断の努力により今日が築かれていることが伝わりました。CMCR は、オペレーショナルな業務継続がミッションではないので、新しいサイエンスが生まれる拠点の役割を意識されているところと思います。これまでの研究活動、学術活動における高い実績は、創造的なミッションを担う実力集団であることを示していると考えます。ただし、今期の第２期以降のミッションと戦略を構築するにあたっては、先立つビジョンについてもよく検討され、そのマイルストーンを具体的に定めるプロセスが必要です。それはできるだけ開かれた透明性のあるプロセスが望ましいところです。また、国際拠点を目指す方向には委員会として賛成します。

世界の研究評価環境は、これまでの CMCR の実績をより評価するように変わる兆候があります。すなわち、科学的価値を生み出すデータ（掘削コア、分析結果など）そのものとその価値の社会的活用です。そのためには、ビッグデータの安逸されがちなロングテール部分にも目が必要です。CMCR の現在のポジションはこのような流れがどうあるべきかいわば渦中の現場に位置しているのではないでしょうか。

研究拠点の人材流動による活性化については大学、他機関とも連携し、多大な努力が払われています。最後に、国内外に存在感を出すことによって、中堅以上の教員、女性の上位職、外国人教員の流動化の促進を呼び、さらなる活性化に寄与することを期待します。

末廣　潔

外部評価委員会　委員長